

彼女が離婚で 得たもの 失ったもの

岡野あつこ

第7回

子供のための結婚



以前は結婚前の妊娠は恥ずかしいことと、妊娠していることを隠そうとしたのですが、最近ではきちやった結婚は珍しいことではありません。中には、なかなかプロポーズしない彼氏にしびれを切らし、計画的に妊娠して結婚しようとする女性もいるとか。

私もできちゃった結婚がいけないとは思いませんし、妊娠が結婚のきっかけになることもあると思います。でも「子供ができて結婚のタイミングが早

くなった」というのならいいのですが、「子どもができたから仕方なく結婚した」というのはいただけません。結婚にも子育てにも義務や責任が伴いますが、それ以上に愛情がなければいけないということを忘れないでいてほしいのです。

生まれてくる子どものための結婚

学生時代にアルバイト先で出会った

そんなとき、秀美さんは妊娠していることに気づいたのですが、仕事に夢中になっている善則さんになかなか打ち明けることができなかったそうです。

でも、そのままにしておくわけにはいきません。そして、子供を産みたいという気持ちは日増しに強くなり、ひとりでも産んで育てると決めて、善則さんにその気持ちを話しました。

善則さんは、その話を聞いたときの気持ちをごう話してくれました。

「正直、まいったなあって感じでした。まだ23歳だし、結婚は当分先って思っていましたから。でも、俺の子どもに間違いないと思うし、知らんぷりはできないですよ。で、俺にも責任はあります。生まれてくる子供のためにも結婚しようって言いました」

そう言われた秀美さん、そのときはただただうれしかったと言います。それから少しずつ気持ちが落ち着き、冷静に考えたとき、「本当にこの人と夫

婦としてやっていける？ これでよかったの？」というかすかな不安もありました。でもそのときは、「子どものためには両親がそろった温かい家庭をつくらなければ」そう思う気持ちのほうが優っていたのです。

的中した不安・夫婦の間でできた溝

秀美さんはつわりもほとんどなく、出産予定日の1ヵ月前まで勤務を続けて産休に入りましたが、善則さんは相変わらず忙しく、帰宅が深夜になることもしばしば。出産後も、「こんなに子どもがかわいいと思わなかった」とは言うものの、なかなか家事や育児の分担はできないまま。

秀美さんは「善則も協力しようと思ってくれていることはわかりました。でも、実際には難しいんです。何とか保育園に空きが出て、私も仕事復帰しましたけど、とにかく忙しくて本当に

という秀美さん(仮名)と善則さん(仮名)。同じ歳でどちらもスノーボードが好きで、同じ作家の小説が好きという共通点があり、出会って半年ほどで交際するようになりました。

マスコミ志望の善則さんは希望通り大手広告代理店に就職を決め、秀美さんも食品メーカーに就職。学生のころのように頻繁には会えなくなりましたが、交際は順調でした。とはいえ、学生時代の友人との付き合いを大事にしていた秀美さんと、仕事を通じた新たな交友関係を築き始めていた善則さんとの間に、微妙な溝もできていたようです。

「彼はすごく仕事が好きそう。私はそれほど仕事に夢中になれないし、職場には面白い話もない。一緒にいても以前ほど楽しくない気がする。もしかしたら、善則は別れたいと思っているのかな」そんな風に秀美さんは感じていたと言います。

目が回りそうでした」

結婚するときの不安が現実になるのでは？ そんな気持ちのせいなのか、出産からだいぶたって、善則さんが求めるのに対して、秀美さんは「まだ体が本調子じゃないから」と言っただけで拒んでしまいました。そして、出産から一年以上が過ぎ、秀美さんのほうから「もう体も大丈夫よ」と言っても、今度は善則さんのほうが「うん、でも疲れているから」と言っただけでセックスを避けるようになり、そのまま二人はセックスに陥ってしまいました。子どもが2歳を迎えるころには寢室は別になり、会話は子どものことばかり。傍目には良い母、良い父で、なんの問題もなく見えるのですが、実は夫婦間に大きな溝ができていたのです。

そんな状態のまま2年が過ぎたころ、秀美さんは離婚を考えるようになり、きつかけは、同じ保育園に子供を預けている、あるお母さんとの出会

いでした。

「シングルマザーなんです、その人。子供ができたってわかったときに男が逃げたって。でも、妻に責任感じて父親面されるより、いないほうが気楽。生活は大変だけど何とかなるもんよって。それを聞いて、私ももつと気楽に生きたいって思ってたんです」と秀美さん。

結婚に失敗してママの人生は儼

善則さんとの間は完全に冷え切っていて、完全な家庭内別居状態。ただ、子供に対してはいい父親でいたいと思うのか、休日はよく遊び相手になったり、食事の世話をしたりすることもありました。でも、秀美さんと善則さんの間にはかわす言葉もなく、一緒にいるのも気づまりな状態でした。

子供も成長するにつれて、両親の間に暖かな結びつきがないことに気づくはず。そんな、形だけ両親がそろ

っているような家庭が子供にとっていはずがない。秀美さんはそう思っていました。

「子どものためとはいえ、愛情を感じない夫と夫婦として暮らしていくのは辛いんです。善則だって同じだったと思います。お互いまだ若いし、やり直すチャンスはいくらでもあるはずなのに、このままでは失敗したままだなと思って。私から離婚をお願いしました」

離婚の申し出を受けた善則さん、一度は子どものために離婚はしないほうがいいと言ったそうですが、「形だけ両親がそろっていけばいいわけじゃない」と言う秀美さんの言葉にうなずきました。

離婚から3年が過ぎ、秀美さんの元には毎月きちんと善則さんから養育費が届き、楽ではないながらも親子二人楽しく暮らしているそうです。

「子供も小学生になり、親の離婚と

いうのをなんとなく理解しているようです。寂

しい思いをさせているのかもしれないと思うこともありますが、あのままでは、あんなに悲しい思いをさせることになっていたら、いいと思いたくありません」と秀美さん。大丈夫です、たとえ片親でも一杯の愛情を注げば必ず子供には伝わるもの。自信をもって新しい人生を歩いていってほしいですね。

●おかのあつこ

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士課程前期課程修了。離婚・再婚・恋愛など男女に関する相談全般を手がけるライフアップカウンセラーとして活躍中。主婦・OLに人気の離婚カウンセラー養成スクールを開催するほか、NPO法人日本家族問題相談連盟理事長も務める。ただいま「解決! ナイナイアンサー」(日本テレビ毎週火曜21:00~)に出演中。[近況]先日、ラジオのゲストに五月みどりさんをお迎えしました。若さの秘訣はストレッチと「私何にも考えないんです~(笑)」とおっしゃっていましたが、とにかくかわいらしい方。こんな年の重ね方したいものです。

